

# 中山間集落における都市農村交流の取り組み

## - 廃校・空き家・耕作放棄地を活用した住民組織による集落活性化活動 -

中園真人\*

### 1. 序論

過疎化・高齢化の急速な進行により、農村地域においては担い手不足により耕作放棄化が進み、空き家も増加しており、農道や畔の草刈り、冠婚葬祭等の集落の相互扶助機能は著しく低下している。2008年調査によれば、今後10年以内に消滅すると予測された集落は全国で423集落、いずれ消滅すると予想された集落は2,215集落に上る<sup>1)</sup>。またこれらの集落の約9割は中山間地<sup>2)</sup>に立地し、約7割が人口10人未満の小規模集落で、中山間地域における農業集落の小規模・高齢化は深刻である。

小規模集落に対しては、小規模農家を組織化し協働して生産活動を行い、効率化を図る集落営農が進められている。2010年2月時点の全国の集落営農数は1万3,577で、2005年以降5年間に3割以上増加している。さらに条件不利地域が多く存在する中山間地域では、2000年に「中山間地域等直接支払い制度」が創設された。2009年度末時点の交付金が交付された市町村は、対象農用地基準を満たす農用地を有す1,090市町村のうち92%で、協定数は28,765に上る。全国の対象農用地面積808,467haに対し交付面積は82.1%で、集落再生や耕作放棄地の防止等の一定の成果が認められる。

ただし本制度に対しては、1) 高齢化が進む地域が多いため、農業生産活動等の維持が精一杯で、生産性・利益向上や担い手の定着等の継続的な農業生産体制を整備するまでに至っていない、2) 飛び地や点在等により基準を満たす農用地を確保できない集落や、1haの団地要件を外れる地域では耕作放棄地の発生を招いている、3) 高齢化等により協定を5年間継続することが困難等の課題が指摘されている<sup>3)</sup>。

一方で、近年の棚田オーナー制度に見られるように、都市農村交流により農地の管理・活用や集落活性化を図る取り組みが各地で展開されている点は注目



図1 集落位置図

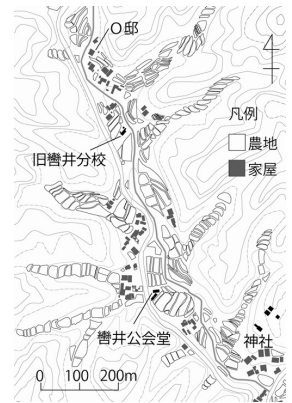


図2 轡井集落

される。集落の小規模化・高齢化が進む中山間地域では、住民のみで集落の維持管理を行うことは困難な状況で、都市住民等の地域外からの協力を得ながら、集落全体で地域活性化に取り組むことにより、農地の管理・活用だけでなく集落機能の維持が期待される。そこで本論では中山間地域の小規模集落において、地域資源を活用した都市農村交流事業に取り組む住民組織の活動調査結果をもとに、住民組織による地域活性化活動が農地利用及び集落機能の維持に及ぼす効果について考察する。

### 2. 集落概要

集落の位置を図1に示すが、轡井・道の市・樅の木の3集落は、下関市菊川町南東部の山間谷あい位置する中山間農業集落である。轡井集落は標高約100m、樅の木集落は約250mで、3集落共に平地が少なく、山を開墾した棚田が谷間に広がる。道の市・樅の木集落は圃場整備が行われているものの、轡井集落は1995年の河川工事の際に川沿いの水路と水田の整備が行われたのみで、傾斜地で農業生産条件の不利な農地が多い。総農家数は43世帯(78.2%)<sup>注(1)</sup>で、大半の世帯において農業が営まれているものの、2000年から2005年の5年間に耕作放棄地面積は2.5倍に増加

\* 山口大学・大学院理工学研究科・教授 (nakazono@yamaguchi-u.ac.jp)

表 1 貴和の里につどう会の活動経過

年度	月	貴和の里につどう会の歩み	活動拠点
2007	3	豊東小学校嚮井分校廃校	貴和の館 公会堂
	6	「貴和の里につどう会」設立	
	9	山口県「高齢者参加型コミュニティ構築支援事業」採択	
	11	都市農村交流事業「芋掘り」	
	12	集落居住者・集落出身者に対するアンケート実施	
2008	4	国土交通省「新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業」採択(2年間)	貴和の館 公会堂
	7	農林水産省「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」採択	
	7	都市農村交流事業「筍掘り」等(～12月)	
	7	地域塾(小学生を対象)(～8月)(計4回)	
	9	空き家改修工事(～3月)	
2009	2	耕作放棄地草刈り・耕起作業(30a)	貴和の館 貴和の宿
	2	竹林整備(20a)・竹炭材準備(～3月)	
	3	下関市より嚮井分校を無償で借り受ける	
	4	都市農村交流事業「筍掘り」等(～12月)	
	6	「貴和の宿」開所式	
2010	1	牛の放牧を導入	貴和の館 貴和の宿
	7	地域塾(小学生を対象)(～8月)(計6回)	
	10	第10回やまぐち県民活動パワーアップ賞受賞	
	1	炭窯制作(～2月)	
	4	都市農村交流事業「筍掘り」等(～12月)	
2010	6	五右衛門風呂増築工事(～9月)	貴和の館 公会堂 貴和の宿
	8	地域塾(小学生を対象)(計2回)	
	10	山口県職員研修の受入れ(耕作放棄地における菜種栽培)	
	12	韓国ボランティアグループとのキムチ作り交流	

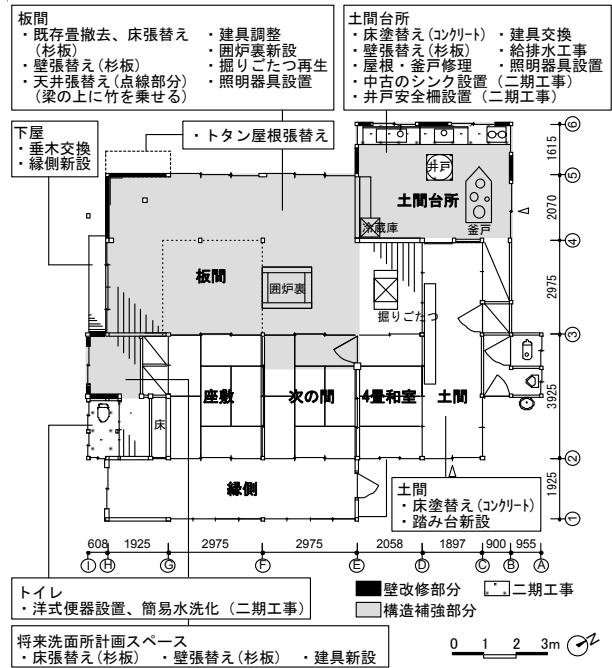


図 3 交流施設改修平面図

している。主要公共施設は嚮井地区に立地する豊東小学校嚮井分校(2007 年閉校)及び嚮井・道市地区の公会堂のみで、スーパー等の商業施設や医療機関もない。嚮井分校の廃校化に伴い、唯一の公共交通の町営バスが予約制に移行し、高齢者は不便な生活を強いられている。1995年から2005年の10年間の人口減少率は19.2%、高齢化率は45.5%(2005年)で、急速な人口減少と高齢化が進んでいる。

### 3. 貴和の里につどう会の設立経緯と活動経過

#### (1) 設立経緯

2007年3月の嚮井分校の廃校を契機に、自治会長を中心に定年退職者5名で集落存続の方向性が検討されていた。一方、同市内で活動する「豊関村おこし応援団」、菊川町で高齢者福祉施設を運営する地域共生ホーム「中村さん家」、山口県立大学の3団体より、嚮井自治会に対し廃校を活用した地域再生事業が提案され、地域住民5名と3団体の意見が一致し廃校を利用した地域活性化活動がスタートした。2007年5月、3団体の代表と住民5名により、組織発足に向けた会合が持たれ、その後3回にわたる会合の後、6月に3集落(嚮井・道市・縦の木)の住民有志20名により「貴和の里につどう会」が設立された。

#### (2) 組織構成と活動内容

「つどう会」は会長・副会長・事務局・運営委員計17名で運営される。主な協働団体は、豊関村おこし応援団・地域共生ホーム「中村さん家」・山口県立大学・下関市立大学・山口大学である。2010年度末現在、地域内の8割以上の入会があり、地域外を含め会員は90名に上る。活動経過を表1に示すが、廃校と空き家を利用した都市農村交流事業を進め、交流人口の増加と地域活性化を目的に活動が展開されている。主な活動内容は①筍掘り・田植え等の年間を通じた農業体験イベント、②小学生対象の夏休み地域塾、③空き家を活用した農家体験、④耕作放棄地の草刈り・景観作物植付け・牛の放牧、⑤竹林整備と竹炭を利用した地域特産物作り、⑥イベント時の筍・米等の特産物販売で、田畑や竹林等の地域資源を活用した取り組みが展開されている。

### 4. 都市農村交流拠点施設の整備

2008年4月に国土交通省の「新たな公によるコミュニティ創生支援モデル事業」に採択されたことから、集落内の空き家状態の茅葺民家を借用し、交流拠点施設の整備が開始された。同年9月から翌年3月の半年間にわたり、つどう会の会員を中心とするボランティアを含めた自主組織により、改修工事が実施された。

図3に改修平面図を示すが、田舎暮らし体験とイ

ベント時の多人数の交流拠点としての活用が主たる用途となるため、土間と南面する続き間(宿泊時の就寝利用)は現状維持とし、北面の4.5-6帖の畳居室部分(多人数のイベント利用)の間取り変更、釜戸・井戸が残された土間台所(調理利用)の設備更新・修復、老朽化した浴室の撤去(土間台所の拡張)、トイレの簡易水洗化を行う改修計画が策定された。

最初に民家の実測調査と老朽度診断調査が実施され、北面畳居室部分の構造部材(足固め・柱・差鴨居)の腐朽が顕著なこと、床材(大引き・根太)の全面的な交換が必要なこと、土間台所のレンガ積腰壁部分の沈下と傾斜が顕著で、基礎部分からの全面改修が必要であること等が判明した。従って改修はこれらの基礎・構造部材の撤去・交換が第1期の主要工事となり、北面畳居室部分については(1)非改修部分の床レベル調整(2)北面畳居室部分の大引き・根太撤去(3)横架材のジャッキアップと柱材の根注ぎ・補強(4)大引きの交換と接合部のボルト補強(5)根太交換と床材張替え(6)土壁補強と建具交換(7)電気工事と天井張替えが行われた。また土間台所については(1)既存浴室撤去(2)横架材のジャッキアップによるレンガ積腰壁・柱の撤去(2)コンクリート基礎打設(3)ブロック積腰壁の新設と床モルタル仕上げ(4)柱交換(5)板壁の新設と建具交換が行われた。

第二期工事として2010年2月にトイレの簡易水洗化工事、同6月から9月にかけて浴室(五右衛門風呂)の新築工事、同9月に台所の流し台交換と井戸の釣瓶設置工事が実施された。浴室新築工事は専門業者に工事発注を行い、手間を要す基礎工事・棟上げには会員が参加した。

このように、茅葺民家の改修は大規模な構造補強工事となったが、全工程が自主組織により施工されている点は類例がなく注目に値する。また五右衛門風呂の新設により宿泊施設としての基本的機能も完備され、今後の活用が期待される。

## 5. 都市農村交流活動

### (1) 都市農村交流活動の特徴

表2に2007年から2009年に開催された3年間のイベントの内容・参加人数・使用場所を示す<sup>注(2)</sup>。つどう会が本格的に活動を開始したのが2007年度半ばで、初年度に行われたイベントは11月の芋ほりの

表2 3年間のイベント一覧

イベント分類	年	イベント名	人数	使用場所				内容				
				公会堂	廃校	空き家	野外	調理	工作	自然体験	その他	昼食付
年間行事 基本型	H19	芋ほり	90	C	BD		A				○	○
	H20	芋ほり・登山	94	C	BD		A				○	○
	H20	筍掘り	65	C	BD		A				○	○
	H21	筍掘り	65	C	BD		A				○	○
	H20	田植え・芋植え	66	C	BD		A				○	○
年間行事 空き家活用型	H20	稲刈り・はげ干し	45	C	BD		A				○	○
	H21	芋ほり	52	C	B	D	A				○	○
	H21	田植え・芋植え			B	CD	A				○	○
年間行事 廃校使用型	H21	稲刈り	47		B	CD	A				○	○
	H20	餅つき	69		ABCD						○	○
地域塾 基本型	H21	餅つき	99		ABCD						○	○
	H20	地域塾1			ABD					○		
	H21	地域塾1	65		ABD					○		
	H21	地域塾2	41		ABD							○
	H21	地域塾3	51		ABD	(A)			○	○	○	
	H20	地域塾4		C	ABD					○	○	○
地域塾 空き家活用型	H21	地域塾4	68	C	ABD					○	○	○
	H21	地域塾5	75		B(A)	CD	A	○		○	○	○
地域塾 野外活動型	H20	地域塾6			B		AD				○	
	H21	地域塾6	56		B		AD				○	
	H20	登山			B		AD				○	

A: イベント開催場所 B: 集合、解散場所 C: 昼食準備 D: 昼食会場

みである。2年目の2008年と3年目の2009年度は計11回のイベントが開催された。イベントの告知は会員に配るチラシ・新聞・TVで広報が行われたが、新規参加者には前年参加者に話を聞き、興味を持ち参加した人が多い<sup>注(3)</sup>。

また夏季に開催される「地域塾」は、小学生を対象に地元会員を中心に「講師」となり、子どもたちに自然体験や工作を教えるもので、夏休み中に6回開催され、地元へ帰省中の東京在住の親子等の参加が見られた。「地域塾」は協働団体の「中村さん家」スタッフと共に運営しているため、「中村さん家」の児童預かりサービスを利用している子供の参加も多い。

### (2) 交流イベントと活動拠点の関係

イベントは年間行事と地域塾に分けられ、使用施設との関連により表3に示す「年間行事基本」型、「年間行事空き家活用」型、「年間行事廃校使用」型、「地域塾基本」型、「地域塾空き家活用」型、「地域塾野外活用」型に分類される。基本型は年間行事と地域塾の主な型で、「年間行事基本」型では公会堂を昼食準備、廃校を集合・解散場所と昼食会場、野外をイベント開催場所としている。「地域塾基本」型は廃校で一日のプログラムが展開される。これに対し「年間行事空き家活用」型は廃校を集合・解散場所、空き家を昼食会場、野外をイベント開催場所としている。昼食準備は公会堂と空き家で行われ、イベント内容は自然体験である。「年間行事廃校」型は廃校でプログラムが

		イベント		
分類	関係図			内容
年間行事	年間行事基本型	廃校	空家	空き家が整備される前まで。廃校で集合・解散。主に野外活動を行う。昼食は公会堂の台所を利用して昼食を準備。
	年間行事空家活用型	廃校	空家	空き家が整備されたH21年以降は空き家が昼食会場に。昼食準備は空き家の台所と公会堂の台所を使用する場合の2つが見られる。
	年間行事廃校使用型	廃校	空家	年間行事のもちつき。廃校で一日のすべのプログラムを済ませている。廃校の内部、外部を一体的に活用。
地域塾	地域塾基本型	廃校	空家	基本的に廃校で一日のプログラムを済ませている。昼食は基本的には各自持参。そうでない場合は公会堂で昼食の準備。
	地域塾空家活用型	廃校	空家	主に空き家を使用している。空き家の庭の広場を使用し、調理体験を行う。そのまま空家で昼食をとる。
	地域塾野外活動型	廃校	空家	廃校で集合・解散。野外活動を中心としたイベント。

図3 イベントの分類

完結する12月の餅つきである。「地域塾空き家活用」型は廃校で集合・解散するものの、空き家を拠点に地域塾が実施され、2009年の地域塾(カレー作り)では空き家で調理体験を行い昼食が取られた。「地域塾野外活動」型は自然体験活動で、廃校を集合・解散場所とし野外がイベント・昼食会場となる。

このように、事業発足の2007年6月から2009年6月までは廃校と公会堂を拠点として活動が展開され、廃校の屋内と屋外を一体的に使用した大人数の参加が可能なイベント、廃校の教室を使用し子供たちの夏休み課外活動を行うイベント、廃校を集合・解散場所とし、山登り等の野外活動イベントが行われている。空き家整備後の2009年6月以降は、土間台所の釜戸で薪をくべて米を炊く等、昔ながらの農家の暮らしを体験するイベントが新たに創出されている。

## 6. 都市農村交流活動の事例

### (1) 稲刈り

2009年10月4日の稲刈りのプログラムを図4に示すが、朝の挨拶・稲刈り・昼食・帰りの挨拶・片付けから構成される。(1) 稲刈り(10:30~)。廃校へ集合し開催挨拶の後田へ出発する。参加者は現地到着後稲刈りの道具や稲を束ねる方法等の説明を受け、スタ

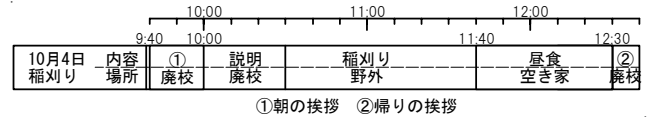


図4 プログラム(稲刈り)



写真1 稲刈り・はぜ掛け

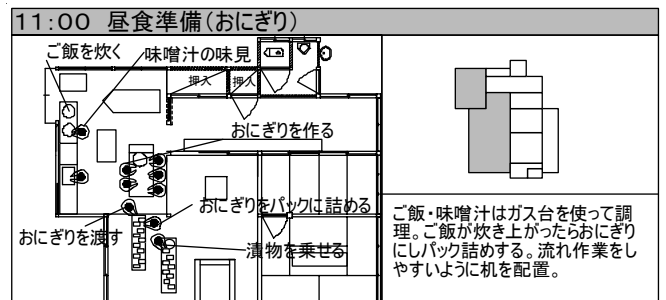


図5 稲刈り時の貴和の宿の使われ方

ップと共に稲刈りを始める。進行状況に応じてスタッフがはぜ掛けの準備を開始し、束ねた稲を竹竿に掛けてゆく(写真1)。はぜ掛けが終了すると全員で貴和の宿に移動する。(2) 昼食(おにぎり) 準備(11:00~)。稲刈りの間に女性スタッフが貴和の宿で47名分の昼食準備を行う。ガス台でご飯・味噌汁を調理する。板間には長机を二台配置しおにぎりのパック詰め作業を行う(図5)。(3) 昼食(味噌汁) 準備(11:30~)。次に味噌汁の準備を行う。おにぎりを握っていた机の向きを変え、台所中央の机で味噌汁を注ぎ、移動した机の上で皿を拭く。また土間からホースを外へ引き外で鍋や桶を洗う。4畳間に長机を一台出し、トレーに入れたおにぎりや飲物を配置する。(4) 昼食(11:45~13:15)。台所で味噌汁を注ぎ前庭の台に運ぶ。参加者は味噌汁・おにぎりを受け取ると各々場所を選び食事をとり、食べ終えたら廃校へ戻る。

### (2) 地域子供塾

2009年8月の地域塾カレー作りのプログラムを図6に示すが、朝の挨拶・カレー作り・昼食・昼休み・おやつ・掃除・帰りの会で構成される。(1) 移動(10:20~11:00)。廃校に集合し貴和の宿まで徒歩移動するが、



		10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00
8月12日	内容	① 説明	カレー作り	②	③	④	⑤ 撤収⑥
カレー作り	場所	廃校	廃校	空き家	空き家	廃校	
		①朝の挨拶	②昼食	③昼休み	④おやつ	⑤掃除	⑥帰りの会

図6 プログラム(カレー作り)

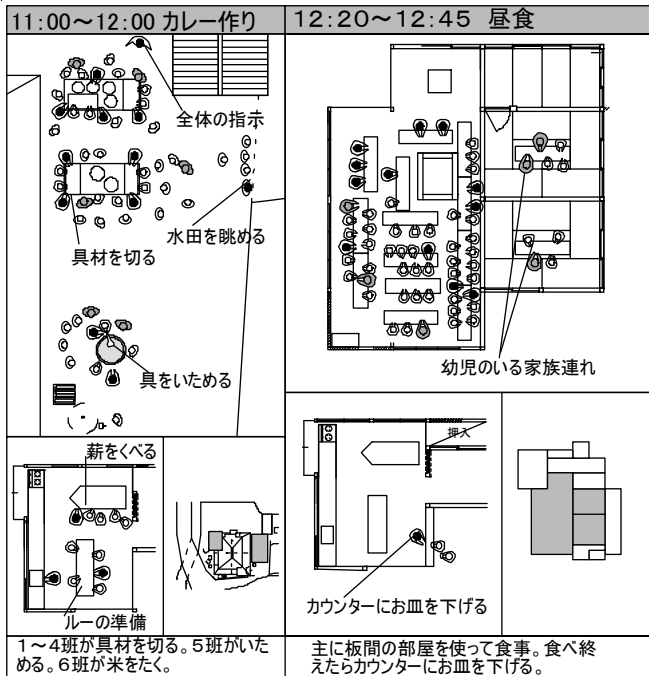


図7 子供塾(カレー作り)での貴和の宿の使われ方

途中牛小屋に寄り牛の見学をする。(2)カレー作り(11:00~12:00)。玄関前庭に整列しスタッフが班の作業分担を指示し、外の水道で手を洗い作業を開始する。前庭に調理台を2台設置し4班が具材を切るが、包丁を使うためスタッフと子供は2人で作業する。1班が具材を大鍋で炒め、1班は台所の釜戸で米を炊く(図7)。(3)食事準備(12:00~12:20)。作業が終了した子供は土間の椅子・踏み台に座り待機している。縁側の長机をスタッフと保護者が板間に配置する。カレーを庭の大釜から小鍋に移し台所へ運び配膳の準備を行う。子供は土間から板間へ上がりカレーを受け取り奥から順に座る。(4)昼食(12:20~12:45)。全員席に座り終えてから食事を始める。幼児のいる家族グループは6畳和室で食事をとっている。食べ終えた班から配膳棚に皿を下げ、その後リーダーが班員を廃校に連れて帰り昼休みに入る。

## 7. 耕作放棄地再生の試み

つどう会が発足し、都市農村交流イベントの取り

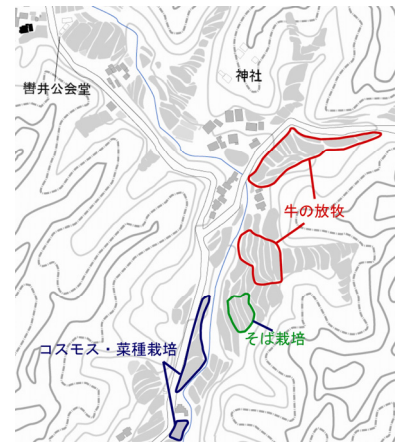


図8 農地再生取組み位置図



牛の放牧

そば栽培(乾燥)



菜種栽培

景観作物(コスモス)栽培

写真2 耕作放棄地再生の取り組み

組みが定着する中で、集落の主要課題である耕作放棄地再生に向けた試みが開始されている。

当初は交流イベント開催のため、筍掘りの会場となる竹林の整備、米作りイベントのための休耕田の借り上げと水路整備、芋ほりイベントのための廃校隣接農地の借り上げと草刈が行われたが、その後(1)耕作放棄地の草刈り作業と牛の放牧による放棄地の除草(2)景観作物(コスモス・ひまわり)の植付け活動(3)菜種・蕎麦の植付けと収穫(4)竹林整備、炭焼き小屋の新設による竹炭生産と特産品の試作等が開始されている(写真2)。また会員独自の取り組みとして、耕作放棄地を借用した自然薯栽培とオーナー制度導入の試みも開始されている。

耕作放棄地の草刈は集落外に居住する会員によるボランティア活動として週1回の草刈り作業が始め

られたが、その後会員の畜産農家が和牛を購入し放牧による除草が始められ、現時点では牛の飼育頭数も増加し定着し始めている段階で、牛の飼育と農地の除草を兼ねるこの方法は、高齢化による人手不足の解消と、耕作放棄地の維持管理を両立させる有効な方法として評価される。

轡井集落の山林には竹が繁茂しており、竹の伐採による適切な竹林管理と伐採竹の有効利用が課題であり、つどう会の協働団体である「竹林ボランティアの会」を中心に竹林整備が行われてきた。2009年度に山口県の助成により廃校に隣接する耕作放棄地を借用し、炭焼き小屋を建設し竹炭の生産が開始されている。また伐採した竹を粉末状に加工し、牛堆肥と混合・発酵させた新たな肥料の試作も計画されており、今後の展開が期待される。

## 8. 結論

本論では既存の廃校・空き家・耕作放棄地等の地域資源を一体的に活用し、都市農村交流に取り組む住民主体の活動事例分析を行った。

第一に交流活動を行うに際し廃校・空き家等の既存施設を整備し、一体的に活用する効果を要約する。

(1) 廃校と空き家は異なる空間特性を持つため多様なイベントが展開可能となる。廃校は広い空間を生かしたイベントの基本活動拠点、空き家は昔ながらの農家の暮らしを体験する場として活用できる。(2) 廃校には調理設備がないため、公会堂・空き家で調理する等、一箇所の施設の設備を充実させずとも、他施設の併用により空間機能の相互補完が可能となる。

(3) 廃校・空き家・牛舎・田畑等が集落内の徒歩移動可能な範囲にあるため、イベント時の一体的活用が実現している。集落内に複数の拠点を持つことで、交流参加者が集落の環境や生活に触れる機会の増加につながり、交流圏域が拠点施設内から集落全体に拡大することが期待される。

第二に住民組織による都市農村交流の取り組みがもたらす、農地利用や集落機能維持を含めた集落活性化の効果と展望について考察する。

つどう会の組織化と交流事業の企画・開催の取り組みを通して、運営委員を中心とする地域住民のスタッフとしての積極的参加が継続しており、集落内の既存施設を整備し施設周辺の耕作放棄地と一体的

に運用する手作りイベントの形態が、集落住民の参加を促している要因として指摘される。また他の団体組織や学生の参加を得、協力してイベント運営に当たる方式も定着してきており、集落住民に新たな刺激や人的交流拡大の機会を提供する結果となっている点も評価される。

また複数の補助事業に採択され財政的活動基盤を得たことにより、構想した交流拠点施設の整備が早期に実現すると共に、シンポジウムの開催や先進地視察等に取り組んだ結果、つどう会の活動の幅が広がり、耕作放棄地再生の試みへと展開を見せている。さらに地元の大豆を原料とした豆腐・味噌作りや、イベント時に野菜・米・加工品等を販売する試みも開始されており、こうした取り組みの更なる展開と連携強化を図ることにより、都市農村交流を核とする集落活性化の展望は見出せるものと考えられる。

## 補注

- (1) 2005年農林業センサスによる。
- (2) 調査期間は2009年4月から2010年12月である。
- (3) イベント参加者に対する聞き取りによる。

## 参考文献

- 1) 維持・存続が危ぶまれる集落の新たな地域運営と資源管理に関する方策検討調査報告書(2008), 国土交通省国土計画局
- 2) 中山間地域直接支払制度検討会資料(1999), 中山間地域等の現状と課題, 農林水産省
- 3) 中山間地域直接支払制度の効果検証と課題等の整理を踏まえた今後のあり方(2009), 中山間地域等総合対策検討会
- 4) 酒井俊之他(2006), 中山間地域における都市農村交流事業の創出手法に関する研究-「発見型交流創出手法」を事例として-, 日本建築学会技術報告集, No. 24, pp. 355-359
- 5) 山本幸子・中園真人・鶴心治(2006), 地元住民団体による茅葺民家の再生 下関市菊川町「歌野清流庵」の事例, 日本建築学会技術報告集, 第24号, pp. 349-354